

13M 解剖学演習・実習 I(肉眼解剖)本試験 2014 年 7 月 25 日実施 解答案

文責: 田川

<佐々木先生担当>

(ネッター、講義・実習資料等を見ない確認はおすすめていたしません)

1. [胸部の問題]

(1)

①(左右の)内胸動(静)脈; ネ 183, 184

②大動脈弓、上大静脈、(他に、胸腺、肋骨胸膜); ネ 205, 190, 187, 192

※胸腺は解剖体では小さいことが多いと考え括弧付きとした。次の(2)で心嚢を切開している
ので、心膜は△だろう。また「特に剖出しなくても」なので、左反回神経や横隔神経は題意か
ら外れると考えた。(もちろん知識としては大事だが。)

(2)

①右心耳(右心房)、冠状溝(右冠状動脈)、右心室、前室間溝(左冠状動脈(前室間
枝))、左心室、肺動脈幹、(他に、左心房の心耳、上行大動脈); ネ 206、実習資
料第 2 回の 5 枚目 6 枚目、第 3 回の 1 枚目 2 枚目の同定項目参照

※冠状動脈は各心房・心室の間を走ることを再確認。

②心膜横洞(左冠状動脈に触れる)、心膜斜洞; ネ 209, 206

※「人体の構造」講義資料 第 4 回 6 枚目の説明参照。←心膜横洞に指を入れて、その前後上
下には何があるかの説明も、ネッター等を参照しながら確認。佐々木先生ここの構造問うのが
お好きな印象。

(3)

食道、奇静脈、胸大動脈、下大静脈、(左右の)気管支、(他に、右肺動脈。胸管
は探さないと見えてこなかった記憶がある…。)の中から 2 個; ネ 200、209

2. [腹部の問題]

※編者はこの問題にざっと目を通した際、8 枚の横断面をまず上から順番に並べるべきだと考
えた。なぜなら、各設問において自分が確認しやすい面で該当構造を確認できたら、その前後(上
下)の横断面にも含まれているかを確認すればよいと考えたからである。追試でも同じ横断面を
出すとのことなので、CT の見方(目印となる構造、周囲の構造)を 12M 実習資料や 12M シケブ

り、さらにネッターなどで3次元的位置関係を確認しておくことを強くおすすめする。

☆上から

$G \rightarrow C \rightarrow F \rightarrow B \rightarrow D \rightarrow E \rightarrow H \rightarrow A$

(1)H,A

※Hが見やすい。Eは上腸間膜動脈が腹大動脈から分岐しはじめたところなので、まだ左腎静脈と交わる場所ではない。(ネ258, 287) Aは上腸間膜静脈、その左に上腸間膜動脈が見える。下大静脈から左側にのびる血管が左腎静脈。←先生に確認必要(汗)。

(2)H,A

※Hが見やすい。ネ281、284参照。Aも臍頭部見える。ちなみにAは十二指腸の下行部と上行部の間に臍臓と大血管収まることがわかる断面。

(3)E

※Eが見やすい。12M実習資料、ネ287など参照。Dは腹腔動脈が走り、臍臓は見えない。臍臓は上縁を腹腔動脈、下縁を上腸間膜動脈ではさまれていることを再確認(ネ281など)。Hは左腎静脈が腹大動脈の前を通るのが見えているから、脾静脈は見えない。

(4)D

※12M実習資料参照。Eでは見えない。

(5)H,A

※H、Aでは十二指腸下行部見える。Eは門脈、脾静脈(、胃十二指腸動脈)が見えている面だから、十二指腸下行部にまだ至っていない。(ネ287参照)

(6)D

※腹腔動脈がみえるのはDだけ。

(7) $D \rightarrow E \rightarrow H \rightarrow A$

※腹部横断面は12M実習資料第5回にある横断面画像参照。各画像を読み取る際の指標も書いてある。胸部横断面は12M実習資料第4回、肝臓の区域の見方は12M実習資料第6回参照。ちなみに編者は横断解剖から復習し始めると、横断面(CT)の見方、かつネッターや講義・実習資料で周囲構造を参照せざるを得なく、結果的に効率良く確認できた。あと簡単でよいので図を描いてみると良い。参考までに。

3.

腰椎圧迫骨折により脊髄が損傷し、仙髄と大脳との連絡が遮断されてしまった。よって陰部神経(下直腸神経)を介した外肛門括約筋の随意的な収縮が行えず、骨盤内臓神経による排便反射は生きているので、排便は不随意的になった。排尿についても大脳からの陰部神経を介した外尿道括約筋の収縮が行えず、骨盤内臓神経による排尿反射は生きているので、排尿も不随意的になった。

※排尿・排便コントロールは「人体の構造」、後者については生理学(器官統御系)でも講義ありました。解剖学講義や標準生理学などで「排尿」・「排便」の項を参照。

4.

(1) ※ネ 381 参照

①※鼠径靱帯の上縁、精管(精索)が浅鼠径輪から出てくるところを囲む。

②

A 精管

B 大腿静脈

D 大腿動脈

E 大腿神経

(2)Vagina: 膣

①総排泄腔を起源とする直腸、膣、膀胱は間膜をもたず、血管、神経を含んだ結合組織により骨盤に固定されているから。ネ 342, 348

※先生に確認必要(^_^;)

②膣は傍中腎管と後腸、特に膀胱の一部から形成されるため。

※「人体の構造」第8回5・6枚目参照。発生学の勉強が足りないので、まだ詳しく説明できません m(_ _)m

(3)Lumbar plexus: 腰神経叢

①虫垂炎の炎症が右の大腰筋に及び、筋が刺激されて攣縮(収縮)するため、右股関節が屈曲する。

※解剖学講義改訂3版 P. 354 参照

②大腰筋

以上